

東 風

第12号

平成12年（2000）9月



南部広域行政組合
島尻教育研究所

目 次

- 教師の自己変革とライフステージ 所長 比 嘉 恒 雄…………… 1
- 今、子どもたちにたくましく「生きる力」を
島尻地区中学校長会長 金 城 弘 一…………… 3
- 修了者及び次期入所予定者、指導講師一覧 …………… 5
- 研修を終えて 島尻教育研究所 教育研究員…………… 6
- 「研究紀要等検索システムの紹介」 ……………12



教師の自己変革とライフステージ

島尻教育研究所長 比 嘉 恒 雄

昨今の、教育改革を支え、その実現の原動力となる教師のあり方や、これらと関係する一連の課題解決の基本的な指針として、「教養審」が答申されたのは、平成 11 年 12 月であった。

この答申の中で、教師に期待していることは、激動する社会の変化に対応できる資質・能力をとりあげ、特に「子どもの成長に役立つ」教師の研修の重要性に、多くのページをさいている。

このことを別の角度から迫って見ると、教師の意識改革を意図したもので、それは生涯学習時代に必要な自己啓発力であり、自己変革を強く求めたものである。

しかし、自己形成・自己変革の実現は口でとなえる程、容易なものではない。今まで、多くの事実が語っているように、設定された研修、校内研修への消極的なかわり方等からは、課題解決への道筋さえ見えてこないものである。

そこで、本稿では、これらの課題解決の試みとして世代ごとのライフステージの設定を多くの教師と一緒に考え、自己変革の一助になればと思い標題のことについて記述してみたい。

20 代教師を特徴づけるものに「若さと子ども好きこそ 20 代教師の至宝」ということばがある。多くの教師が彼らにたくしていることは、実態に基づいた指導技術を身につけたり、謙虚さを求められたり、一人一人の児童・生徒を見届ける等、教師としての基礎、基本がその主なるものである。しかし 20 代の教師は、多くのことにに関して、まだ形が定まらず玉虫色の状態で、自らの自画像を描くことは無理のようである。

このことは、自らの白いキャンパスの中に大きな可能性を秘め、今後どういうライフステージを描くかは、本人次第であるということを実感することは、とても大切なことである。

そこで、自分自身の位置づけや、生き方について関係する多くの方々のアドバイスも生かしながら、自分なりの自画像を描いてほしい。そのためには、積極的に先輩に教えを求めたり、自分で試めしたり、あるいは実践の中で自己形成していく構えづくりも大切にしなければならない世代である。

20 代の無我夢中の時期から、一歩ぬけ出して、足もとをしっかりと固め、自分をふりかえる余裕もできはじめ、周辺からは、より良質な実践が求められてくるのもこの世代である。

しかし、10 年近くも、その道を経験してくると、多少なりとも自分なりの形が形成されて、それが時には、わざわいの基になって柔軟さに欠ける対応が出はじめてくるのもこの世代である。

このような 30 代の一般論を抱えながらも校内における彼らへの期待や存在は決して軽いものでなく、むしろ期待の方がより大きい。子どもを見つめる目も確かさを増し、児童・生徒の実像にせまる力も身につけ、20 代と 40 代からの信頼も厚く、接着剂的な役割も要求されてくるのもこの世代である。

しかし、島尻管内の幼・小・中の教員への調査の結果、統計上 1 番多くの課題を抱えているのは、この世代である。30 代を境にして教員の研修に対する意欲が右肩下りの降下線をたどることである。まさに 30 代は教員の転機であると思う。

このようなことを考える、教師のライフステージの 1 番必要なのは、30 代であると思う。

古くから「40代は、ごまかしのきかない重要な世代である」とよく言われてきた。教師の力量は、研修に裏づけられたキャリアがあつてはじめて、説得力と存在感が増し、周辺からも高い評価をうけるものである。しかし、反対のことになれば、評価も低く、あらゆる面で個人差が広がってくるのも、この世代の大きな特徴である。

30代と40代教師の決定的な違いは、30代は指導の中に生き、40代は組織の中で力を発揮する世代である。その役割は組織の中で、自らの能力や特性を存分に発揮しながら組織を束ね組織を動かし、モラルを高め、リーダーとして力量を発揮するのも40代である。

このようなことから、中堅としての40代は組織体である学校で、多くの20代、30代教師の生き方に決定的な影響力を与えるものである。

自己形成、自己変容は、生涯学習時代に生きる人間にとって最もふさわしい生き方である。特に、そのことを業としている教師には、説明の必要はないほど重要なことである。

しかし、そういうことは知識として知っていても、教育実践の中で積みあげながら変容にまでつなげていくことは至難な業である。

今まで、とりあげてきた20代～40代のライフステージは、自己形成の一つの目標である。

人生の目標の大切さを説いた王陽明のことばを自己変容の目標にして今後は、それを生活の中に生かしていきたいものである。

「志立たざれば、舵なきの舟、銜なき馬の如し。

ひょうとうほんいつ
漂蕩奔逸して、終にまた何の底る所ぞや」

平成12年9月



今、子どもたちにたくましく「生きる力」を

島尻地区中学校長会長 金城 弘一

21 世紀を目前にして、今や社会は大きく変わりつつあります。情報化、国際化、少子・高齢化社会と急速に進展する中で、教育界も大きな変革の時期を迎えております。

このような背景の下に、これからの学校教育の在り方として「ゆとり」の中で「生きる力」をはぐくむことを目指し、各学校は特色ある教育活動を展開する中で、自ら学び自ら考える力の育成、基礎的・基本的な内容の確実な定着、個性を生かす教育の充実が求められています。

平成 14 年度の新教育課程の完全実施に向けて、各学校では変化への対応に向けて取り組みが着々と進みつつあります。

移行期間中の各教科の指導は、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、指導に十分配慮し、次の事項に留意して指導に当ることが重要です。

1. 授業時数の弾力的運用について

授業を特定の期間に行うことができること。授業の 1 単位時間は、各教科等の年間授業時数を確保しつつ、各学校が適切に定めることができる。

2. 選択教科について

すべての学年、すべての教科で開設できる等その拡充が図られている。生徒の特性等の多様化に対応し、主体的に学ぶ力をはぐくむ学習活動の工夫、学習内容、方法等十分把握させるためのガイダンス機能の充実、適切な教師の支援が必要である。

3. 総合的な学習の時間について

地域や学校の実態等に応じ、創意工夫を生かし特色ある教育活動を展開できるような時間を確保する。

多様な学習形態、地域素材人材の活用、全教師が一体となった指導体制で体験的・問題解決的な学習を展開する。

4. 各教科の指導に当って

(1) 基礎的・基本的な学習内容の定着

新学習指導要領は学習内容を厳選し、基礎的・基本的な内容の定着をめざしている。移行措置により生じる余裕の時間を活用して、学習内容を確実に身につけさせることが大切である。

(2) 個に応じた指導の充実

生徒が学習内容を確実に身につけることができるよう、学校や生徒の実態に応じ、個別指導やグループ別指導、学習内容の習熟の程度に応じた指導、教師の協力的な指導方法や指導体制を工夫改善する。

(3) 体験的・問題解決的な学習や情報手段の活用

観察・実験、見学・調査、実習、課題学習など積極的に取り入れるとともに、コンピュータなどの情報手段を積極的に活用する。

(4) 3 年間を見通した指導計画の作成

各教科等の移行措置期間中の特例内容を踏まえ特に、平成 12 年度の第 1 学年、平成 13 年度の第 1、2 学年の指導に当っては、3 年間を見通した指導計画を作成する。

このように、完全実施までに段階的に必要な措置を講じて実施していくことが大切です。

生徒に「生きる力」を育むことが最も重要であることを示す新学習指導要領は「総合的な学習の時間」を加え、体験的な学習の重要性を強調しています。

それは、体験的な学習が次のような意義をもつからです。

- 自然や文化財、多くの人々の社会生活などに直接ふれることは大きな感動を得ることができ、学習への関心、意欲が高まる。
- 知識、技能、思考力、判断力、創造力などが総合的に身につく。すなわち「生きる力」が身につく。
- 人との心のふれあいによって、豊かな心を育てることができる。

その学習の指導においては、次の事を留意する必要がある。

- その時間の体験的な学習によって解決したい課題を教師が与えるのではなく、自分の力で課題が設定できるように導く。
- 課題を解決するための情報を自分の力で収集できるよう支援する。
- 体験的な学習から得られたことがらを分析し、深く考え、課題解決ができるように指導する。

イギリスの諺に「聞いたことは忘れ、見たことは覚え、体験したことは理解する」とあります。新学習指導要領の趣旨を生かし、体験的な学習を充実させ、子どもたちにたくましく「生きる力」をはぐくむことに努力して下さい。

平成 12 年 9 月

平成 12 年度 前期 教育研究修了者及びテーマ一覧

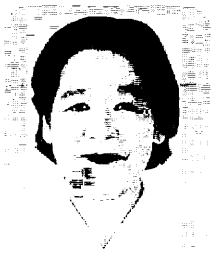
期	No.	氏 名	勤 務 校	教科・領域	研 究 テ ー マ
前期	1	大 城 幸 子	糸満市立 高嶺幼稚園	幼稚園教育	喜んで登園できる幼児の育成 －園歌とかかわる環境や遊びの工夫を通して－
	2	與那嶺 啓 子	玉城村立 玉城小学校	教 育 相 談	発達課題を抱える児童の心理理解と援助 －教師による描画法を通して－
	3	橋 川 由美子	糸満市立 光洋小学校	学 級 経 営	望ましい人間関係を育てる学級経営 －グループ活動の工夫を通して－
	4	比 嘉 恵 子	東風平町立 東風平小学校	教 育 相 談	不登校児への援助を育てる学級経営 －個別的アプローチと人間関係を育てる援助を通して－
	5	比 嘉 恵 子	糸満市立 糸満南小学校	国 語 科	児童が意欲的に取り組む作文指導の工夫 －五感を働かせて観察したことを文などに表す指導を通して－
	6	加 勢 美智子	糸満市立 西崎中学校	学 級 経 営	「共に生きる」を考える学級経営 －対話・交流活動を通して－

平成 12 年度 指導講師及び担当教科

指導講師	教科・領域	所 属 等	指導講師	教科・領域	所 属 等
名 嘉 峯 子	幼稚園教育	与那原町立 与那原東幼稚園教頭	比 嘉 彬	学 校 経 営	豊見城村立 伊良波中学校校長
宮 城 調 仁	教 育 相 談	佐 敷 町 立 佐敷中学校教頭	津嘉山 絹 子	生 活 科	与那原町立 与那原小学校教諭
荷川取 幸 代	学 級 経 営	糸満市教育委員会 指 導 主 事	大 城 守	学 級 経 営	豊見城村教育委員会 指 導 主 事
野 原 盛 栄	教 育 相 談	東 風 平 町 立 東風平中学校校長	武 内 典 子	道 徳	玉 城 村 立 船越小学校教頭
上 原 弘 子	国 語 科	南 風 原 町 立 翔南小学校校長	宮 城 末 義	総合的な学習	県教育庁島尻教育事務所 指 導 主 事
二 宮 睦 生	学 級 経 営	豊 見 城 村 立 伊良波中学校教諭	宮 里 豊	教 育 相 談	南 風 原 町 立 南風原中学校教諭

平成 12 年度 後期 入所予定者及び予定テーマ一覧

期	No.	氏 名	勤 務 校	教科・領域	研 究 テ ー マ
後期	1	黒 潮 彰	知念村立 知念小学校	学 校 経 営	学校の活性化を図るための方策
	2	与那嶺 永 子	南風原町立 南風原小学校	生 活 科	総合的な学習へつなげる生活学習の授業づくり
	3	平 良 梢	南風原町立 翔南小学校	学 級 経 営	一人一人のよさを生かす学級経営の工夫
	4	嘉手苺 友 子	糸満市立 真壁小学校	道 徳	地域の特色を生かした指導 －地域素材を生かした道徳授業の教材化を通して－
	5	與世田 典 子	豊見城村立 上田小学校	総合的な学習	自ら学ぶ力を育てる問題解決学習
	6	津嘉山 さゆり	糸満市立 糸満中学校	教 育 相 談	生徒に生きる力を育むための教育相談 －生徒理解を通して－



幸せ探しの研究所

～島尻教育研究所での一日～

糸満市立高嶺幼稚園教頭 大城幸子

島尻教育研究所が設立された頃、島尻の幼稚園教師にも研究の場があることを知り「行ってみたい」と心動かされました。「でも～ができない」「行きたい」の葛藤を乗り越えての入所でした。

入所通知を頂いた時には、ささやかだが喜びの祝いをしました。同僚や父母に励まされて送り出された念願の島尻教育研究所です。私にとっては、入園受け付けが初めての出会いである園児達が、研究の為に園を訪れる私に、「幸子先生！パソコンも三味線も頑張ってるね。」「二学期には遊ぼうね。」との声かけは、研究テーマをみつめ研究の難しさ厳しさに悩んでいる時の勇気づけになりました。

今、修了を間近にして、この原稿に6カ月の思い出を走らせています。島尻教育研究所での一日の生活は、私に「生きる為の幸せ」を一杯見つけさせてくれました。まわりが学びの教材に溢れ、じっくり自分をみつめることができました。研究所での学びは、練習は不可能を可能にすることを教えてくれました。全然出来なかったパソコンを使って指導案が作れるようになり、触れた事のない三線で、「秋の踊り」や「安波節」が弾けるようになりました。一言、一文、一字の重みや、思う事と活字に表す事の難しもしりました。大事な事を見落としていた自分に気づき、この気づきが私のこれからの研究の始まりになります。研究所での一日は、多様な学びの積み重ねがあり、充実した幸せな6カ月を過ごすことができました。

《朝の活動》

研究所の一日は、朝の清掃から始まります。室内と駐車場の掃除を2班に分担してやります。外の日には心が弾みます。「おはようございます」と振興会の方々と交わす挨拶はさわやかな雰囲気があります。

《朝のミーティングと情報交換》

・月曜日、水曜日、金曜日はミーティングと歌声。火曜日、木曜日は情報交換です。

毎週月曜日には、比嘉所長による「琉球の歴史」の講話があり楽しみでした。

《大切な話（水曜日）と三分間スピーチ（金曜日）》

大切な話では、外山滋比古氏の「学校で出来ること出来ないこと」の小冊子の中から題材を見つけ全員で話し合いました。三分間スピーチでは、研究員一人一人が、日頃思っていることや体験したこと、幼児や児童、生徒の事、家族の事等が話し合われました。話しの中から生き方、考え方の違いを学びました。言いたい事をうまく言えない時が多く、話すことの難しさを改めて感じました。最後は両主事と比嘉所長で話しをまとめてくださいました。幼稚園現場では味わえない貴重な時間でした。

研究所では、自分の研究テーマに行き詰まる時には、次の様に人物像をみたてて心を和らげました。父親に比嘉所長、母親に上原主任主事、私の担任に賀数主事、6人姉妹（姉も妹もできました）の研究員、隣の人々として、南部振興会の皆さん、6カ月、同じ屋根の下でのかかわりは、おかげさまで多くの学びを得て、研究に頑張ることができました。このかかわりは、私の『宝物』です。大切にしたいと思います。

研究を進める中で、時には厳しく指導・助言を下さった比嘉恒雄所長、上原幸得主任指導主事、賀数昌治指導主事、指導講師の名嘉峯子教頭先生、諸先生方に心より感謝申し上げます。研究所で学んだことを幼稚園現場での実践に生かしてみたいと思います。

最後になりましたが、このような貴重な研修の場を与えてくださいました糸満市教育委員会、南部広域行政組合、花城清睦園長先生をはじめ、職員の皆さん、関係各位の皆様方に厚くお礼を申し上げます。



ひとまわり大きくなった翼で

－所外研修を通して－

玉城村玉城小学校教諭 與那嶺 啓 子

何と筆を持たずにレポートが書けるようになった私。所外研修の第一回日はOCCでの一日がかりのパソコン研修。すぐにその成果は表れ、パソコンアレルギーの自分との潔い訣別。「私ってすごい？」

初心者の私をここまで仕立てたあげた比嘉講師の気合いと教育技術は並のものではなかった。受講者の心理を上手につかみ、すかさず援助を。愉しく、しかも健康面に配慮しつつ。「プロの根性をゲット！」

ピクニック気分で行った所外研修も沖縄国際センター、家庭裁判所、中央児童相談所と回を重ねるごとに、重い課題を研究所に持ち帰ることになった。しばし鉛のハートに。帰路の車中で、研究所で本音本気の討論が自然発生的に起こったりした。

施設の子供たちを見たり職員の話の聞いたりしていると、母親の幼児に与える影響の大きさを今更のように痛感する。全員が母親でもある研究生6人は深刻になった。

沖縄少年院から沖縄刑務所に至るまでの沖縄の課題はほとんどが共通している。

- * 沖縄の夜型社会の子供に与える影響（マイナス面の大きさ）
- * 母親の溺愛・父親不在。（両親の果たす役割のアンバランス）
- * 子供への教育と同時に親への教育の必要あり。

比嘉恒雄所長，上原幸得主任主事，賀数昌治主事に優しく厳しく扱われたおかげで6回の所外研修においては物事の捉え方が多面的になり，視野を広げることができたように思われます。研究生の身分で貴重な体験学習をさせていただきました。どの施設に行っても懇切丁寧に説明・ご案内をいただき感謝の念でいっぱいです。「研究所って素晴らしい！」

その所外研修の成果と課題を自分なりに整理し，教育現場に持ち帰っていききたいと思います。

外からは、穏やかに見える研究所の内は、課題の嵐の吹きまくり？。その風は、防御の衣をはぎ取り、あるがままの自己を見つめさせてくれました。努力というものが苦にならない不思議な力と方向性を示してくださった指導講師の宮城先生、諸先生方、いつも温かく見守ってくださった南部広域行政組合の職員のみなさん、また、南部市町村の人材育成に対する熱意と支援のおかげにより、無事に貴重な六ヶ月間の研修を終えようとしています。ありがとうございました。

一回り大きくなった翼で研究所を巣立っていきます。





心をオープンに ー「大切な話」「三分間スピーチ」ー

糸満市立光洋小学校教諭 橋川 由美子

人との付き合いの中で、自分の思いや考えを言うことはとても大切なことです。しかし、自分の心を開きありのままの自分をさらけ出すのは勇気がいります。研究所に来た私の目的の一つが、この『心をオープンに』でした。子供たちを変えていくにはまず自分が変わらなければという思いでした。研究所生活のスタートとともに恒例の「大切な話」と「三分間スピーチ」が始まりました。この中で思いをまとめて話す経験をたくさんする機会を得ることが出来ました。

「大切な話」は、外山滋比古著『学校で出来ること出来ないこと』の小冊子をテキストに使います。教育に関するエッセイが93項目も載っていて、日頃忘れられがちな教育のヒントが綴られています。その中から一つ選び、毎週水曜日にみんなで意見交換をします。普段から自分の意見をきちんと言う習慣がないので、始めは何を話していいのかわからず、どぎまぎしてしまいました。日頃から訓練しておく必要を感じました。

「三分間スピーチ」は、毎週金曜日に行われました。一つのテーマを決め、3分間にまとめてスピーチをします。まずテーマを決めるのが大変でした。時期に合っているか、共通の話題か、話しやすい話題かなど……しかし幸いにも私たち6名は全員女性、同世代、妻、親と共通点が多く、話が盛り上がり時間が忘れるほどでした。「名前」「20才の頃」「戦争のこと」「勘違い」などのテーマはたくさんの意見ができました。研究員の中には立て板に水のごとく流暢に話す雄弁家もいて、うらやましい限りでした。しかし日が経つにつれお互いの気心がわかると、みんな自然体でリラックスして話せるようになってきました。話すこともとても良い勉強になりましたが、それ以上に人の話を聞き、一つのテーマを通して見方考え方の違いや広さを知ることができたのは有意義でした。自分の考えの狭さや無知さに自己嫌悪に陥ることもありましたが、プラス思考で前向きに考えようとする姿勢も身につけてきました。

「大切な話」と「三分間スピーチ」の終わりには、上原主任主事と賀数主事の感想がありました。両主事の個性や人柄がはっきりと出て興味深く、また私たちと同世代で共感するところが多かったです。所長のまとめの決まり文句「しからばですね……」が始まると、「そら、来たぞ！」と背筋を伸ばす私たちでした。どんな題材も所長の手にかかれば見事に料理され皿に盛られ「ははあー！」と敬服のため息がもれるのでした。話のまとめ方の極意をここで修得(?)できました。

この6ヶ月間を振り返ってみると、研究所の温かい雰囲気に包まれ、いつの間にか心がオープンになっているのを感じます。また大切な話や三分間スピーチの中で毎回のように故郷四国に触れて話している自分に気づきました。心の原点が故郷にある事に改めて驚きました。苦しいけれども充実した研修生活、たくさんの人との出会い、二度とできないような貴重な経験をすることが出来、感謝の気持ちでいっぱいです。研修のチャンスを与えてくださった南部広域行政組合の皆さん、温かく導いて下さった比嘉所長、手取り足取り指導して下さいました両主事、熱心に指導して下さいました荷川取幸代指導主事、応援して下さいました光洋小学校の安田栄一校長先生・職員の皆さん本当にありがとうございました。



すばらしき学びの日々 ～所内研修を通して～

東風平町立東風平小学校教諭 比 嘉 恵 子

サトウキビ畑のなかを歩いて八重瀬の丘を見ながら、不安と期待のなかで研究所の門をくぐってから半年が過ぎました。

静かに落ち着いた中での1日のスタート、「日々研鑽」「3人行えば必ず我師あり」の言葉のもと、これまでの自分を振り返るまたとない機会になりました。

比嘉所長には最初の入所に際しての研究生としての心構えや、現代の教育の抱える課題についての講話で始まり、現実を鋭く分析しながら、未来への展望を開き、夢を持てるお話を聞かせていただきました。そして、毎週月曜日の「琉球の歴史」の講座は自分のルーツをさかのぼるような不思議な感動を覚えることがたくさんあり、歴史の流れの中にいることを感じさせられました。

上原主任主事は、研究所での研究の進め方を中心に話してくださり「テーマ」から「研究集録」まで研究が充実したものになるように心を砕いてくださいました。また、学校における法規についての講話では、法律に疎い私たちに学校教育の立つ基盤についてきちんと認識しておくことの大切さを教えていただきました。三線も熱心に手ほどきくださり、沖縄の文化への熱い思いを研究生にも分けてくださいました。

賀数主事には、ほとんどパソコンの使えなかった私たちが研究集録を仕上げられるまでに、手取り足取り教えていただきました。私たちにとって現場に持ち帰ることのできる大きな財産となりました。また研究に行き詰まったときにいつでも原点に戻り、何が課題なのか考え、自分の足もとを見つめ直すことの大切さを学びました。

玉寄局長からは、南部広域行政組合の組織や研究所ができたいきさつについての熱いエピソード、19市町村のイニシアチブ等についての講話と、人と人とのふれ合いの楽しさについて教えていただきました。

知花課長は気持ちのよいすばらしい習字で、私たちを魅了しました。さっとお手本を書いていただきしばし「研究報告書」のことも忘れて習字に没頭した「七夕競書」の日、いつか知花課長のようなすばらしい字を書けるようになりたいと発憤したのは私一人ではないと思います。

その他にも、心理検査の研修を受ける機会や前所長の宮城恒彦先生からの直筆の色紙や書物の贈り物、振興会で働いている方たちとのふれ合いなど、実にたくさんの学ぶ場がありました。

半年間の中で「しのめ教室」の子ども達との出会いや運天先生、城間先生の情熱や姿勢にもふれ、現場での自分を振り返る機会となりました。

そして、日々研究をともにした6人の研究仲間、出口が見えず、力のなさに研究が進められないとき、励まされ支えとなりました。話し合うことの大切さ、本音を出して話し合えるすばらしさを感じました。

常に物事の本質を見つめることの大切さを教えてくださった比嘉恒雄所長、課題をどう見つめ、どのように研究を進めていくのか指導してくださった上原幸得主任主事、賀数昌治主事、指導講師の先生方、私たちの研究を全面的に支えてくださった南部広域行政組合の皆様、快く研修に送りだし励ましてくださった伊志嶺校長先生、教頭先生、諸先生方に心より感謝申し上げます。



すばらしい講師との出会い

糸満市立糸満南小学校教諭 比 嘉 恵 子

島尻教育研究所で学ぶ中で、「ここに来て本当に良かった。」と感激することがたくさんありました。その中の一つが指導講師との出会いです。計画検討会から研究報告会までの間に5回指導講師との検討会がありましたが、研究内容や報告書のまとめ方などについて悩んだり躓いたりしている私たちに、その都度適切なアドバイスをしてくださいました。また、計画された5回の検討会以外にも、困ったときにはアドバイスをしていただきました。学校現場では、こんな懇切丁寧な指導は到底望めません。

さらに、指導講師の6名の先生方からは、「指導講師講話」として貴重な話を伺う機会があり、そこで多くのことを学びました。

4月21日（金） 二宮睦生先生 「成長する子供への自己同一化」

絵を描かせるときには、子供の発達段階を押さえ、そのときの思いを大切にその時期に応じた指導をすることが大切で、図工科で教えるべきことは、自分の気持ちを素直に表現すること、表現する楽しさを味わわせることだと教えていただきました。教師の教え込みの弊害を知り、ドキッとさせられました。

5月8日（月） 荷川取幸代先生 「私の学級経営」

学級経営について、先生のこれまでの実践をもとにしたより具体的な話をお聞きすることができました。4月に行う基本的なしつけの仕方、集中力がなくなるときどのようにするか、学級PTAの持ち方など、すぐに実践に生かせるような内容でした。また、子供たちが喜ぶ歌や踊りもたくさん教えていただきました。

5月15日（月） 野原盛栄先生 「子供の実態把握と児童生徒理解」

最近の多発する青少年の犯罪、最近の子供の実態について、分かりやすく説明し、その子供たちをどう理解していけばよいかについてお話を伺いました。子供を肯定的に捉え、一人一人の良さや可能性を見つけて伸ばしていくことが大事だということでした。

5月23日（火） 宮城調仁先生 「〇〇としての子供の動かし方」

実際に私たち研究生に指示を出したり作業や討議をさせたりしながら、「子供を動かす法則」について具体的に教えていただきました。子供たちへの指示の出し方や評価の仕方など、なるほどと頷く内容ばかりでした。学校に戻ったら早速実践してみようと思いました。

7月26日（水） 名嘉峯子先生 「幼児の思いやりの心を育む」

子供の成長の過程、発達の過程をよく知って、共感的な関わり方をしていくことが大事であること、また、子供の興味関心を育てる環境の工夫が必要であることを、幼稚園での事例を通して説明してくださいました。親として、教師として、反省すべき面をたくさん気付かされました。

8月10日（木） 上原弘子先生 「生きてはたらく国語の力の育成」

総合的な学習の授業を見ていると、資料のまとめ方や発表の仕方など、国語科で学んだことが生かされていないという話題から、国語科が、総合的な学習で果たす役割について詳しくお話ししていただきました。「情報の集め方、調べ方、まとめ方、報告や発表、討論の仕方」などを国語科で、しっかりと指導していくことが大切であることを強調されていました。

どの先生の講話もとても興味深く、講話が終わった後も講師の先生を取り囲んでいろいろ質問したり話を伺ったりしました。6ヶ月の間にこんなに貴重な話をたくさんお聞きすることができ感謝の気持ちでいっぱいです。先生方から学んだことをこれからの実践に生かしていきたいと思います。

6か月の研修を修了するにあたり、私たち研究生を支えて下さった関係各位の皆様にご心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



緊張と開放

糸満市立西崎中学校教諭 加 勢 美智子

「島尻教育研究所」にはいくつかの節目がある。とオリエンテーションの日に研究所の指導主事から説明を受けましたがその頃、私たちはことの重大さの十分の一も理解していませんでした。私たち研究生のその節目を並べてみると4月入所式、5月計画検討会、6月検証授業、7月中間検討会、8月報告書検討会、9月研究報告会となります。

入所式はちょうど何十年ぶりに味わう入学式の雰囲気でした。島尻教育研究所逍遙歌にのって会場に入る私たち研究生の総勢はたったの6名です。「こんなに緊張したのは初めて」と、日頃生徒を叱咤激励している顔とは随分違い弱気な不安そうな研究生一同でした。

さて、いよいよ研究所生活もスタートし軌道に乗り始めますと研究の進度に応じて検討会がもたれます。5月・7月・8月の各検討会は研究を深めると同時に、私たちに数多くの学びの場を提供してくれる最高の機会でした。まず、「研究とは何ぞや」を日夜考えさせてくれました。テーマの絞り込みをといわれ、研究生どうし幾度となく意見を述べ合い、自分の文章を見てもらい、助け合いながら「ああでもないこうでもない」と研究をそしてお互いの絆を深めてきました。その頃の私たちの日常会話頻出語ベスト3は「すこし見えてきた?」「全然先が見えない」「まだすっきりしない」というようなものでした。

3回の所内の検討会はいずれも毎回朝9時から午後4時頃まで6人のレポートについて一人一人時間をかけて行われます。これまで講師の丁寧な指導を受け、また研究生どうし切磋琢磨しつつ必死にまとめて間に合わせたレポートです。でも、みんなかなり不安そうな面持ちは共通していました。持ち時間10分で発表し所長以下指導主事・研究生の質疑をうけ、あらゆる方向から指摘やアドバイスなどがあります。小じんまりした所内の検討会ですがかなりの緊張感と緊迫感があり、ピーンと張り詰めた雰囲気は研究所生活の中でも大好きな一瞬でした。だいたい4時ごろ全員の原稿の検討が済みます。体力的にはぐったりですが全員の緊張があつという間にゆるみ笑みがこぼれます。出来はさておきとりあえず全員でひと山越えた開放感はまた格別です。所長以下9名で部屋を移して「ご苦労さん会」お互いの健闘(?)を称えつつの雑談も心和むひと時でした。「戦いすんで日が暮れて」比嘉所長・上原・賀数両指導主事と御三方の人柄の良さと献身的なご指導に本当に感謝感謝の毎回の検討会でした。

検討会・ご苦労さん会と続き、実は After 5にもう一つあります。名づけて「番外検討会」とでもいえるでしょうか。そこでの話題は①「私はこのように失敗した」失敗自慢大会があり、②「あなたのレポートはここがいい」ほめあげ大会が続き最後に「でもすごいよね」と、③「御三方の名語録あつめ」で盛り上がります。常に「愛とロマン」を語り叱咤激励してくれた比嘉恒雄所長。私たちのレポートの質の高さを追及し常に「フォロー」を忘れなかった上原幸得主事。具体性と現実性を追求する「リアリスト」で私たちの命綱である賀数昌治主事。とにかく絶妙な個性の組み合わせ、また職員のチームプレイでご指導いただきました。みんなで任務分担して出かけていった6月の6回の検証授業も楽しい思い出です。「授業は人なり」同僚の新しい面を発見するのも楽しいのですが、毎回訪問する他校の雰囲気をを知るのも興味深い体験でした。そんなこんなで過ごした「緊張と開放」の6ヶ月の時間は、私にとって本当に貴重な時間でした。

研究紀要等検索システムの紹介

現在、当研究所には県内外からの研究報告書類が一万件以上寄贈されています。北は北海道から南は石垣市までの全国の教育に関する研究報告が集まっています。また島尻管内の各学校の校内研究の成果も並べられています。

写真のように書棚に配架してありますが、コンピュータを使ってより効率よく検索ができるようにしました。校内研究や個人研究を進めていく際に、これまでの研究の成果を参考にすることは、研究の内容をよりよいものに高めていくことに役立ちます。おもに当研究所の教育研究員が研究を進めていく時に利用しています。以下、検索の手順を説明します。

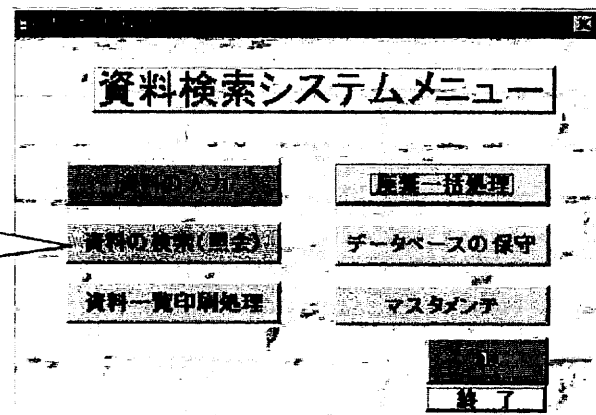


県内の研究紀要

1 メニュー画面

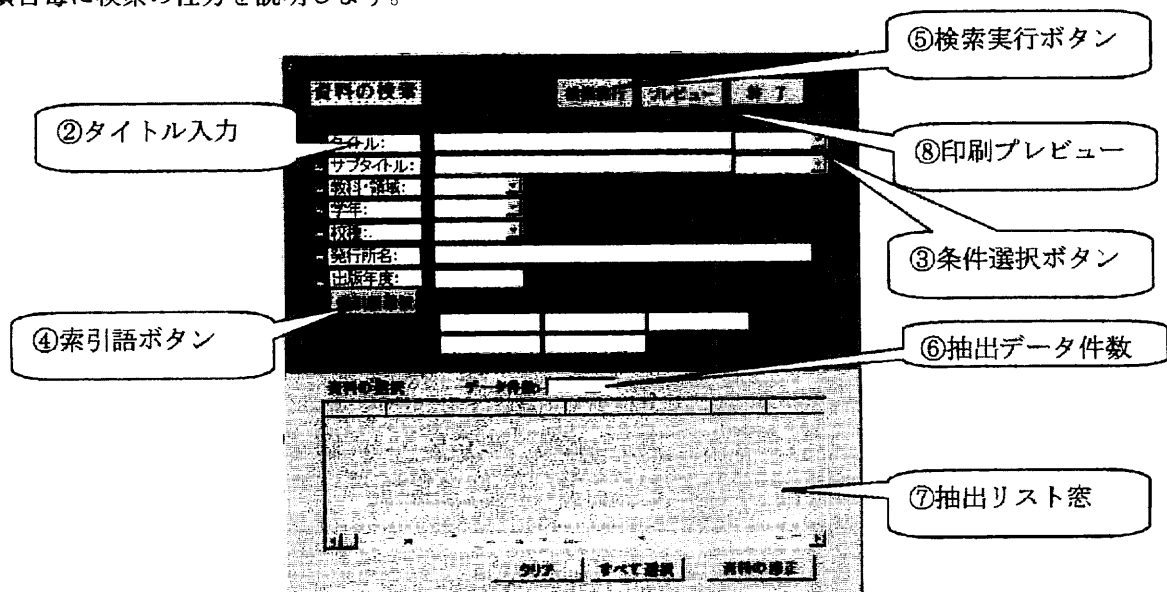
システムのショートカットアイコンをダブルクリックするとメニュー画面が出ます。

① 検索ボタンを押す



2 検索画面

資料の検索はこの画面のタイトルから索引語までの各項目ごとに調べることができます。それぞれの項目毎に検索の仕方を説明します。



(1) **タイトル** 検索したいタイトル名のすべてか一部を記入してください。そして、タイトル名を記入する場所の右とににある より▼をクリックして **を含まない**か**を含む**を選んでください。

(例)「生活科」と入力して、条件選択を**を含む**とすれば「生活科」という文字を含むタイトルを持った資料をすべて拾い上げて抽出リスト窓へ表示します。

(2) **サブタイトル** タイトルと同じ

(3) **教科・領域** 教科・領域の ▼をクリックして選択してください。
該当する項目がなければ **その他** を選択してください。

(4) **学年** 教科・領域と同様に ▼の▼をクリックして選択してください。また、該当項目がなければ**その他**を選択してください。

(5) **校種** 教科・領域と校種同様に ▼の▼をクリックして選択し該当する項目がなければ**その他**を選択してください。

(6) **発行所名** 発行所名は、すべて記入してください。

(7) **出版年度** 検索したい出版年度を和暦(例:平成10年度→H10)で入力します。

(8) **索引語** 索引語を直接記入するか索引語ボタンを押して索引語を選択してください。

3 検索条件を指定した後で **検索実行** をクリックすると条件に該当する情報のみが抽出されリストに表示されます。また、検索条件を増やすことで検索結果をより絞り込むことができます。

(注意) 検索条件を指定しなければ、全件検索になります。(全件検索とは、登録されている資料情報すべてが対象になります。)

4 印刷

抽出リスト窓に表示された資料を選択後、**プレビュー** ボタンを押すと印刷画面が出ます。

選択が正しければ印刷のアイコンを押してプリントします。下の図は、教科・領域を **算数** とし、索引語を**表現力** として検索した結果のプレビュー画面です。

資料一覧

1 / 2 ページ

2000年8月29日

資料番号 001778

タイトル名称 基礎的・基本的事項の定着を図る指導の工夫

サブタイトル名称 4年「面積の求め方の工夫」の指導を通して

教科・領域 算数 校種 4年 学年 小学校 出版年度 平成04年 発行所名 平島市教育委員会

索引語1 基礎・基本の定着化 索引語2 思考力 索引語3 判断力 索引語4 表現力

索引語5 学習課題

資料番号 002579

タイトル名称 自ら問題を考え主体的に解決する力を育てる指導と評価 サブタイトル名称 なし

教科・領域 算数 校種 その他 学年 小学校 出版年度 平成09年 発行所名 東京教育研究所

索引語1 学ぶ意欲 索引語2 新学力観 索引語3 意欲・関心 索引語4 表現力

索引語5 問題解決学習

資料番号 002599

タイトル名称 児童が主体的に取り組む授業を目指して

サブタイトル名称 体験的な活動や問題解決的な学習を通して

教科・領域 算数 校種 その他 学年 小学校 出版年度 平成09年 発行所名 小山市教育委員会

索引語1 体験活動 索引語2 問題解決学習 索引語3 表現力 索引語4 チームティーチング

索引語5 生きる力

資料番号 002602

タイトル名称 ひとりひとりの児童を活かす指導の工夫

サブタイトル名称 児童主体の学習を通して

教科・領域 算数 校種 その他 学年 小学校 出版年度 平成09年 発行所名 小山市教育委員会

索引語1 指導工夫 索引語2 新学力観 索引語3 表現力 索引語4 判断力

索引語5 思考力

資料番号 003212

タイトル名称 心豊かに学び続ける子供を育てる算数学習

サブタイトル名称 問題解決力を高める学習の展開

教科・領域 算数 校種 その他 学年 小学校 出版年度 平成08年 発行所名 札幌市教育研究協議会

索引語1 算数数学 索引語2 学ぶ意欲 索引語3 問題解決能力 索引語4 自己教育力

索引語5 表現力

島尻教育研究所逍遙歌



島尻教育研究所逍遙歌

作詞 宮城恒彦
作曲 親泊明美

一 報得の流にゆるやかに
朝陽に映ゆるまぎびの原
指導の道を究めんと
集いしわれら意気高し

二 辿る道程 厳しけど
友の情に 涙して
明日に灯 ともさんと
語る仲間の 声やさし

三 遙かに望む 八重瀬岳
うつろふ雲は 綾なして
ぬぐうへ急ぐ 群れ鳥に
光ほのかな 宵の星

一九九六年五月十三日